

RS
2
7-30-02

Attorney Docket No. 826.1789

IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE

In re Patent Application of:

Akira JINZAKI

Application No.:

Group Art Unit:

Filed: February 7, 2002

Examiner:

For: BROADCASTING COMMUNICATIONS SYSTEM

Jc714 U.S. PTO
10/067295
02/07/02

**SUBMISSION OF CERTIFIED COPY OF PRIOR FOREIGN
APPLICATION IN ACCORDANCE
WITH THE REQUIREMENTS OF 37 C.F.R. § 1.55**

Assistant Commissioner for Patents
Washington, D.C. 20231

Sir:

In accordance with the provisions of 37 C.F.R. § 1.55, the applicant(s) submit(s)
herewith a certified copy of the following foreign application:

Japanese Patent Application No. 2001-231361

Filed: July 31, 2001

It is respectfully requested that the applicant(s) be given the benefit of the foreign filing
date(s) as evidenced by the certified papers attached hereto, in accordance with the
requirements of 35 U.S.C. § 119.

Respectfully submitted,

STAAS & HALSEY LLP

Date: February 7, 2002

By: _____

James D. Halsey, Jr.
Registration No. 22,729

700 11th Street, N.W., Ste. 500
Washington, D.C. 20001
(202) 434-1500

JAPAN PATENT OFFICE



This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this office.

Date of Application: July 31, 2001

Application Number: Patent Application
No. 2001-231361

Applicant(s): FUJITSU LIMITED

October 26, 2001

Commissioner,
Japan Patent Office Kozo Oikawa

Certificate No. 2001-3093369

【書類名】 特許願

【整理番号】 0150465

【提出日】 平成13年 7月31日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 H04B 1/03

【発明の名称】 放送型通信システム

【請求項の数】 20

【発明者】

 【住所又は居所】 神奈川県川崎市中原区上小田中4丁目1番1号 富士通株式会社内

 【氏名】 陣崎 明

【特許出願人】

 【識別番号】 000005223

 【氏名又は名称】 富士通株式会社

【代理人】

 【識別番号】 100074099

 【住所又は居所】 東京都千代田区二番町8番地20 二番町ビル3F

 【弁理士】

 【氏名又は名称】 大菅 義之

 【電話番号】 03-3238-0031

【選任した代理人】

 【識別番号】 100067987

 【住所又は居所】 神奈川県横浜市鶴見区北寺尾7-25-28-503

 【弁理士】

 【氏名又は名称】 久木元 彰

 【電話番号】 045-573-3683

【手数料の表示】

 【予納台帳番号】 012542

 【納付金額】 21,000円

日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE



別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office

出 願 年 月 日
Date of Application:

2001年 7月31日

出 願 番 号
Application Number:

特願2001-231361

出 願 人
Applicant(s):

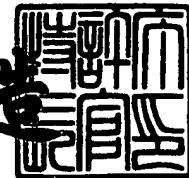
富士通株式会社

CERTIFIED COPY OF
PRIORITY DOCUMENT

2001年10月26日

特 許 庁 長 官
Commissioner,
Japan Patent Office

及 川 耕 造



【その他】 国等の委託研究の成果に係る特許出願（平成 1 2 年度通産省委託事業「エネルギー使用合理化システム開発調査等（エネルギー使用合理化電子計算機技術開発）」委託研究、産業活力再生特別措置法第 3 0 条の適用を受けるもの）

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9705047

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 放送型通信システム

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 送信者が送信者側に設けられたプロセッサを用いて複数の受信者に対して受信者毎にデータを送信することによって放送型通信を行う情報処理装置であって、

前記プロセッサから入出力バスを介して供給される受信者の情報と配送データに基づいて、前記受信者毎に対応するパケットを生成し、接続するネットワークに送信する配送手段、

前記配送手段を前記入出力バスを介して前記情報処理装置の前記プロセッサに接続する手段と、

を備えることを特徴とする情報処理装置。

【請求項 2】 請求項 1 記載の情報処理装置であって、

複数の前記配送手段を備え、

前記情報処理装置のプロセッサが前記入出力バスを介して前記複数の配送手段に同一の配送データを供給し、前記配送手段毎に異なる受信者情報を供給する、ことを特徴とする情報処理装置。

【請求項 3】 請求項 1 記載の情報処理装置であって、

前記配送手段は、

パケットの送信順序と送信タイミングとからなる配送スケジュールを制御する配送スケジュール手段と、

前記受信者の情報を管理する受信者情報管理手段と、

前記配送データを格納管理するバッファ手段と、

前記配送スケジュールに従い、指定された受信者に対してパケットを生成し、送信するパケット手段と、

を備えることを特徴とする情報処理装置。

【請求項 4】 請求項 3 記載の情報処理装置であって、

前記配送手段は、更に、前記情報処理装置のプロセッサから配送データの供給を受けることなく配送データを取得する配送データ入力手段を備えることを特徴

とする情報処理装置。

【請求項 5】 請求項 3 記載の情報処理装置であって、
複数の前記配送手段と、

前記情報処理装置のプロセッサから配送データの供給を受けることなく、配送データを取得する配送データ入力手段を備える配送入力手段を少なくとも一つ備え、

前記入力配送手段から前記入出力バスを介して他の前記配送手段へ配送データを供給することを特徴とする情報処理装置。

【請求項 6】 請求項 3 記載の情報処理装置であって、

前記配送スケジュール手段は、前記受信者情報管理手段が管理する情報から特定の受信者の情報を取得するための識別情報と、前記特定の受信者に対して配送するデータを前記バッファ手段から取得するための識別情報と、パケットの送信に係わる情報とを、前記パケット手段に対して予め決められた順序とタイミングで供給することを特徴とする情報処理装置。

【請求項 7】 請求項 6 記載の情報処理装置であって、

前記パケットの送信に係わる情報は、前回パケットを送信した時刻と次にパケットを送信すべき時刻に係わる情報を含むことを特徴とする情報処理装置。

【請求項 8】 請求項 3 記載の情報処理装置であって、

前記受信者の情報は、前記パケット手段が各受信者に対応するパケットを生成するために必要な情報を含み、

前記受信者情報管理手段は、前記パケット手段から指定された受信者に対応する前記受信者の情報を前記パケット手段に転送することを特徴とする情報処理装置。

【請求項 9】 請求項 8 記載の情報処理装置であって、

前記受信者の情報は、前記配送データをネットワークに送信するときに必要となるパケットヘッダ情報の形態にしたものであり、

前記受信者の情報は常に固定的な部分とパケット毎に変更される部分を識別する変更情報を含む、

ことを特徴とする情報処理装置。

【請求項 1 0】 請求項 9 記載の情報処理装置であって、

前記パケット手段は、前記変更情報に基づいて変更部分のみ情報を加工し、固定部分は前記受信者の情報の対応する部分をそのまま用いてパケットヘッダ情報を作成し、前記配送データと前記パケットヘッダ情報を結合してパケットを生成し、ネットワークに送信することを特徴とする情報処理装置。

【請求項 1 1】 請求項 3 記載の情報処理装置であって、

前記バッファ手段は、前記配送データを管理するための管理情報と、前記パケット手段がパケットを生成するための補助情報とを、前記配送データに付加して管理することを特徴とする情報処理装置。

【請求項 1 2】 請求項 1 1 記載の情報処理装置であって、

前記バッファ手段は、前記配送データを一定の長さの配送データブロックに分割し、各前記配送データブロックに前記管理情報と前記補助情報を付加して管理することを特徴とする情報処理装置。

【請求項 1 3】 請求項 1 2 記載の情報処理装置であって、

前記管理情報は、前記配送データブロックの長さに係わる情報と前記配送データブロックを配送すべき受信者数に係わる情報であり、

前記補助情報は、前記配送データブロックのエラー検出符号である、
ことを特徴とする情報処理装置。

【請求項 1 4】 請求項 1 3 記載の情報処理装置であって、

前記配送データブロックを配送すべき受信者数に係わる情報は、前記配送データブロックを必要とする受信者数を示すカウンタでそれぞれ表現され、

前記配送スケジュール手段が受信者に配送するデータとして該当する前記配送データブロックを参照する毎に対応する前記カウンタを 1 増加し、

前記パケット手段が該当する前記配送データブロックの配送を完了する毎に対応する前記カウンタを 1 減少させ、

前記バッファ手段が、前記カウンタを 1 減少させた結果が 0 になった時に、対応する前記配送データブロックを破棄する、

ことを特徴とする情報処理装置。

【請求項 1 5】 請求項 1 3 記載の情報処理装置であって、

前記エラー検出符号は、前記配送データブロックのチェックサムである、
ことを特徴とする情報処理装置。

【請求項 1 6】 請求項 3 記載の情報処理装置であって、
前記配送手段は、更に、
ネットワークからパケットを受信する受信手段と、
前記受信手段で受信した前記パケットを、該配送手段で処理できるか否か識別
する受信パケット識別手段と、
前記受信パケット識別手段で処理できると判断された前記パケットを処理し、
処理できないと判断された前記パケットを前記情報処理装置のプロセッサに転送
する受信パケット処理手段と、
を備えることを特徴とする情報処理装置。

【請求項 1 7】 単数の送信者が、複数の受信者に対して受信者毎にデータを
送信することによって放送型通信を行う情報処理装置に設置されるネットワーク
アダプタであって、

パケットの送信順序と送信タイミングとからなる配送スケジュールを制御する
配送スケジュール手段と、

前記受信者の情報を管理する受信者情報管理手段と、
配送データを格納管理するバッファ手段と、
前記配送スケジュールに従い、指定された受信者に対してパケットを生成し、
送信するパケット手段と、
を備えることをネットワークアダプタ。

【請求項 1 8】 請求項 1 7 記載のネットワークアダプタであって、
ネットワークからパケットを受信する受信手段と、
前記受信手段で受信した前記パケットを、該ネットワークアダプタで処理でき
るか否か識別する受信パケット識別手段と、
前記受信パケット識別手段で処理できると判断された前記パケットを処理し、
処理できないと判断された前記パケットを前記情報処理装置のプロセッサに転送
する受信パケット処理手段と、
を備えることを特徴とするネットワークアダプタ。

【請求項 1 9】 放送型通信を行う送信者側情報処理装置がパケットを生成して、送信する方法であって、

前記情報処理装置のネットワークアダプタが、前記情報処理装置のプロセッサから供給される受信者の情報と配送データに基づいて、受信者毎に対応するパケットを生成し、送信する過程を含むことを特徴とする方法。

【請求項 2 0】 請求項 1 9 記載の方法であって、

前記受信者の情報を、予めパケットヘッダ情報の形態にして保持する過程と、
前記配送データをブロックに分割し、各ブロックに対応する管理情報とパケットを生成するための補助情報とを付加して保持する過程と、

パケットの送信順序と送信タイミングとからなる配送スケジュールに従って、
指定された受信者に対してパケットを生成し、送信する過程と、

を含むことを特徴とする方法。

【発明の詳細な説明】

【0 0 0 1】

【発明の属する技術分野】

本発明は、パケット通信を用いて放送型通信を行うためのシステムに係わり、特に送信側の負荷を低減した情報処理装置に関する。

【0 0 0 2】

【従来の技術】

従来、一つのデータを単一の送信者から複数の受信者へ送信するような放送型通信は広く用いられてきた。T V 放送は、電波を用いた放送型通信の一例である。

【0 0 0 3】

近年では、図 2 2 に示すような、基本的に 1 対 1 通信であるパケット通信を用いた放送型通信の需要が高まっている。インターネットで行われている、ストリーミングによる画像や音声の配信はその一例である。

【0 0 0 4】

インターネットのようなパケット通信網で放送型通信を行う技術としては、マルチキャスト及びユニキャストを用いた方式がある。

図 2 3 にマルチキャストによる放送型通信を示す。マルチキャスト通信では、送信者 2 3 0 1 が予め決められたマルチキャストアドレスを宛先とするパケットを送信し、ネットワーク 2 3 0 2 がそのパケットを予め決定された経路情報に従って複製しつつ伝送することで複数の受信者（2 3 0 3、2 3 0 4）にデータが配信される。受信者は、ネットワーク 2 3 0 2 のマルチキャストアドレスの受信者グループに登録することで、パケットを受信できる。

【 0 0 0 5 】

図 2 4 にユニキャストによる放送型通信を示す。ユニキャスト通信は 1 対 1 のパケット通信であるため、送信者 2 4 0 1 が全ての受信者（2 4 0 3、2 4 0 4）に対して同じデータを送信することで放送型通信を実現する。

【 0 0 0 6 】

上述のマルチキャスト及びユニキャストによる方式にはそれぞれ得失がある。図 2 5 にそれをまとめて示す。送信者側の負荷に関しては、マルチキャストの場合、送信者がマルチキャストアドレスを宛先とするパケットを 1 回送信するだけに対して、ユニキャストの場合はそれぞれの受信者に対してパケットを送信するため、受信者数に比例して送信者側の負荷が増大する。しかしながら、アドレス管理、ネットワーク制御、受信者側の制御の 3 項目については、マルチキャストの場合複雑になるのに対して、ユニキャストの場合は 1 対 1 のパケット通信となら変わらないため単純である。

【 0 0 0 7 】

このような得失により、両者の方式は必要に応じて利用されているのが実状である。どちらを選択するかは利用対象にもよるが、マルチキャストによる方式はアドレスやルーティング管理を必要とするのに対して、ユニキャストによる方式は特別な管理を必要としないため広く用いられている。インターネットでしばしば Web cast と呼ばれている画像／音声放送はユニキャストによる方式を用いている。

【 0 0 0 8 】

さて、一般にパケット通信を用いた放送型通信を実現するために、大きく分けて次の 1) ～ 3) の処理機能が必要である。1) 受信者からの配送要求を受け付

ける（受信者管理）、2）配送データを準備する（データ準備）、3）通信手順に従い、受信者毎に異なる通信条件を満たすようにデータを配送する（配送処理）。

【 0 0 0 9 】

従来方式においては、これら1）～3）の処理を全て送信者側の情報処理装置である配送サーバ2601がプロセッサ制御で行っている（図26）。特に、ユニキャストによる放送型通信では受信者数に相当するデータ配送を行わなければならないため、プロセッサ2602による各種処理の負荷が増大する。

【 0 0 1 0 】

また、2）データ準備、に関して、放送型通信の場合、パケットの大きな部分を占めるデータ部分は受信者に関わらず同一だが、パケットヘッダなど異なる部分があるため、受信者毎に全てのパケットデータを転送しなければならない。そこで受信者毎に異なるパケットを配送サーバ2601のメモリ2603上で作成し、I/Oバス2604に接続されたNIC（Network Interface Card、ネットワークアダプタに相当する）2605、2606に転送するため、I/Oバス2604の負荷が増大するという問題がある。

【 0 0 1 1 】

更に、3）配送処理、に関して、配送処理は実時間処理であるため、同時接続受信者数が増大すると実時間性が保証できなくなり、所期の配送品質が得られないという問題もある。すなわち、配送品質を調整するために、受信者に応じて変えるべきパラメータの代表例として少なくとも以下のア）～ウ）があり、同時接続受信者数が増大するとこれらの個別制御を行うのが困難となる。

【 0 0 1 2 】

ア）受信者のネットワークアドレス及び通信手順に従って調整すべきパラメータ：受信者のネットワークアドレスや利用するプロトコルなどのパラメータであって、受信者に配送するために必須な情報である。

【 0 0 1 3 】

イ）一個のパケットで転送するデータ長：MTU（Maximum Transfer Unit）で、パケット一個の長さを規定する。受信者が接続してい

るネットワークによって効率良く転送可能なパケット長は様々であるため、最適なデータ長のパケットを配送することで配送品質を向上させることが可能となる。

【 0 0 1 4 】

ウ) パケットを送信する速度(率)の平滑化:できるだけ同じ転送速度でパケットを配送することが望ましいが、一般に配送サーバ側のネットワークは高速なのに対して受信者側のネットワークは低速である場合が多い。このため配送サーバ側で間欠的に配送を行うと、受信者側では間欠的に集中配送されたデータを受信しきれないことがある。このような輻輳によるデータ破棄は配送サーバから受信者に到達するネットワーク内部でも発生しうるため、配送サーバ側では可能な限り平滑化した配送を行うことが配送品質の向上につながる。

【 0 0 1 5 】

【発明が解決しようとする課題】

そこで本発明の課題は、送信者側の情報処理装置である配送サーバが同時にサービス可能な受信者数を増大させるだけでなく、配送品質を低下させないことを目的として従来の配送サーバの諸問題を解決することにある。より具体的には、配送サーバのプロセッサ負荷及びI/Oバス負荷を低減し、配送品質を受信者の要求に対応して調整できるようにする。

【 0 0 1 6 】

【課題を解決するための手段】

上述した課題を解決するために、本発明では、配送サーバのI/Oバスに接続されるネットワークアダプタに対応する配送手段を設け、配送手段が配送サーバのプロセッサからI/Oバスへの接続手段を介して供給される受信者の情報と配送データに基づいて、受信者毎に対応するパケットを生成し、送信するようにした。

【 0 0 1 7 】

本発明の一態様によれば、前記配送手段は、パケットの送信順序と送信タイミングとからなる配送スケジュールを制御する配送スケジュール手段と、前記受信者の情報を管理する受信者情報管理手段と、前記配送データを格納管理するバッ

ファ手段と、前記配送スケジュールに従い、指定された受信者に対してパケットを生成し、送信するパケット手段とを備える。

【0018】

このような構成をとることにより、配送サーバのプロセッサは受信者管理を行うと共に配送すべきデータをI/Oバスに接続された配送手段に一度転送すれば良く、配送サーバのプロセッサ負荷及びI/Oバス負荷を低減することができる。また、受信者毎に対応するパケットを生成し送信するため、配送品質を受信者の要求に対応して調整することができる。

【0019】

【発明の実施の形態】

以下、本発明の実施の形態を図面を参照しながら説明する。

尚、以下の実施形態の説明ではユニキャストによる放送型通信における送信側の情報処理装置の負荷を低減するための方式について言及するが、マルチキャストによる放送型通信に対しても適用可能であり、特に高速なデータの放送においては効果を持つ。

【0020】

図1は本発明の原理構成を示す図である。本発明を実施する情報処理装置である配送サーバ101は、プロセッサ102、バッファメモリ103、I/Oバス104、配送手段105を備える。配送手段105は、パケットの生成や送出制御を行う配送処理部106と、プロセッサ102から供給される配送データを保持するバッファメモリ107と、ネットワークに接続するNIC108とから成る。プロセッサ102は受信者管理を行うと共に、バッファメモリ103上の配送すべきデータをI/Oバス104に例えばPCIのような接続手段を介して接続された配送手段105に転送する。転送されたデータは配送手段105のバッファメモリ107に保持される。配送処理部106は受信者情報に基づいて受信者毎にパケットを生成し、NIC108を介してネットワークに送出する。

【0021】

図2に、図1に示した配送サーバ101の処理の流れを示す。以下、本発明における配送サーバ101の処理はプロセッサ102ではなく主として配送処理部

106で行われる。まず、プロセッサ102が配送指示を出す(S201)。すると、受信者管理情報(S202)、及び配送データ(S203)が配送手段105に転送される。更に、配送手段105で、受信者全てに配送データを配送したかが判断され(S204)、Yesの場合は処理を終了する。Noの場合は、配送スケジュールを生成・管理し(S205)、パケットヘッダを生成し、該パケットヘッダとS203で取り込まれた配送データとからパケットを生成し、パケット送出の準備を行う(S206)。そして、パケットが配送され(S207)、S204に戻る。

【0022】

図1に示した配送サーバ101では、同時にサービスできる受信者数は配送手段105の能力で制限されるが、I/Oバスに配送手段105を複数接続することで性能を向上させることができる。図3に、複数の配送手段105を備える配送サーバ101-1を示す。図3は、複数の配送手段105を備える以外は図1と同じ構成をとる。

【0023】

図4に、図3に示した配送サーバ101-1の処理の流れを示す。まず、プロセッサ102が配送指示を出す(S401)。すると、受信者管理情報(S402)、及び配送データ(S403)が配送手段105-1~105-nに転送される。各配送手段105-1~105-nでは同一の処理が行われるため、配送手段105-1の処理408について説明する。まず、受信者全てに配送データを配送したかが判断され(S404)、Yesの場合は処理を終了する。Noの場合は、配送スケジュールを生成・管理し(S405)、パケットヘッダを生成し、該パケットヘッダとS403で取り込まれた配送データとからパケットを生成し、パケット送出の準備を行う(S406)。そして、パケットが配送され(S407)、S404に戻る。

【0024】

図1の配送サーバ101をさらに応用して、配送手段105を、配送データを取得する配送データ入力装置502を備える入力配送手段501に置き換えることも可能である。図5に示す配送サーバ101-2では、プロセッサ102は受

信者管理のみを行い、I/Oバス104上のデータ転送は受信者管理情報のみとなる。配送データはカメラ等の配送データ入力装置502で取得され、バッファメモリ107に保持される。そして、配送処理106が受信者情報に基づいて受信者毎にパケットを生成し、生成されたパケットをNIC108を介してネットワークに送出する。

【0025】

図6に、図5に示した配送サーバ101-2の処理の流れを示す。まず、プロセッサ102が配送指示を出す(S601)。すると受信者管理情報(S602)、が入力配送手段301に転送される。更に、入力配送手段301で、受信者全てに配送データを配送したかが判断され(S603)、Yesの場合は処理を終了する。Noの場合は、配送スケジュールを生成・管理し(S604)、パケットヘッダを生成し、該パケットヘッダと外部入力機器S605で取り込まれた配送データ(S606)とからパケットを生成し、パケット送出の準備を行う(S607)。そして、パケットが配送され(S608)、S603に戻る。

【0026】

図5に示した配送サーバ101-2の入力配送手段501は配送データの入力及び配送を一括して処理できるが、同時に処理できる受信者数は一個の入力配送手段501の能力で制限される。そこで、複数の入力配送手段702及び配送手段701を装備し、ある入力配送手段702から別の配送手段や入力配送手段I/Oバスを介して配送データを転送するようにすることで配送サーバの性能を向上させる(図7)。この場合、プロセッサ102が受信者管理の一環として配送データをどこからどこへ転送するかを制御する。

【0027】

以下、本発明の実施例について詳細に説明する。

ところで、配送データとしては、ディスクやファイルシステムに格納されたデータを用いたり、カメラなどの入力機器から配送データを撮り込むことなどが考えられる。本発明が対象とする情報処理装置はいずれかの方法で配送データを獲得することができるもので、これらは既存技術を利用すればよく、ここではその説明を割愛する。

【0028】

また、以下の実施例では、通信プロトコルとしてインターネットで利用されているRTP (Real-time Transport Protocol)、RFC1889を用いるが、本発明はRTPに限定して適用するものではない。

【0029】

本発明の配送サーバはプロセッサ、バッファメモリ、PCIバスなどのI/Oバスを備える情報処理装置である。そして、図1などに示した配送手段105が例えばPCI等の接続手段を介してI/Oバス104に接続する。

【0030】

配送手段105はI/Oバス104に装着するもので、コスト面、実装面積など物理的な制限のためサーバのプロセッサに比べると配送処理に特化した能力のプロセッサを用いる必要がある。しかし、配送手段105は処理内容が限られるので、処理内容に応じた専用の機構を設けることで高速な処理を実現することができる。

【0031】

配送手段105は、配送サーバのプロセッサから指示された受信者情報を保持し、配送データをバッファリングして、指定された通信条件に従ってパケットを送信するものである。これを実現するにはいくつかの方法が考えられるが、本質的には以下のような機構に基づき実現することができる。

【0032】

図8に配送手段105の詳細な構成を示す。配送手段105は、制御手段801、配送スケジュール手段802、受信者情報テーブル手段803、バッファ手段804、パケット手段805とから構成される。受信者管理情報807は配送サーバ101のプロセッサ102から制御手段801に供給される。配送データ808はバッファ手段804に供給される。配送スケジュール手段802は配送スケジュールを管理し、受信者情報テーブル手段803は各受信者の情報を管理する。パケット手段805はバッファ手段804の配送データと、受信者の情報をもとにパケット806を生成し、送出する。以下、各手段について説明する。

【0033】

制御手段 8 0 1 は、配送サーバ 1 0 1 のプロセッサ 1 0 2 との情報のやりとり、配送手段 1 0 5 内部の制御、ネットワーク制御などの全体制御を行うものである。図 8 に示すように、制御手段 8 0 1 は、受信者管理情報と配送スケジュールを配送スケジュール手段 8 0 2 に供給する。また、配送サーバ 1 0 1 のプロセッサ 1 0 2 から供給される受信者管理情報 8 0 7 に基づいて、配送スケジュールを作成する場合もある。尚、制御手段 8 0 1 は、制御用の比較的安価なマイクロプロセッサ及びソフトウェアで構成することができる。

【 0 0 3 4 】

配送スケジュール手段 8 0 2 は、受信者に対して配送データを送信する順序やタイミングを規定した情報を管理する。パケット手段 8 0 4 がこの情報に従って個々のパケットを送信する（パケット手段 8 0 4 については以下に詳細に説明する）。配送スケジュールは配送サーバ 1 0 1 のプロセッサ 1 0 2 が受信者管理情報 8 0 7 の一部として与える場合や、制御手段 8 0 1 が独自に作成する場合がある。

【 0 0 3 5 】

図 9 に配送スケジュール手段 8 0 2 の詳細な構成を示す。配送スケジュール手段 8 0 2 は、配送先格納部 9 0 1、受信者情報アドレス格納部 9 0 2、配送データアドレス格納部 9 0 3、配送データ長格納部 9 0 4、配送時刻情報格納部 9 0 5 などの格納部（9 0 6、9 0 7 はその他の情報を格納する部分）と、スケジュール部 9 0 8、メモリモジュール部 9 0 9 とから成る。

【 0 0 3 6 】

図 1 0 にメモリモジュール部 9 0 9 の構成例を示す。それぞれの受信者に配送するための情報が、配送 1（1 0 0 1）、配送 2（1 0 0 2）、・・・として保持されている。受信者情報アドレス 1 0 0 3 は受信者情報テーブル手段 8 0 3 が持つ受信者情報の格納アドレスないし識別子である。配送データアドレス 1 0 0 4 はバッファ手段 8 0 4 に格納された配送データの中で今回転送すべきデータの格納されたアドレスである。配送データ長 1 0 0 5 は、今回配送すべきデータ長である。配送時刻 1 0 0 6 は今回配送すべき時刻情報である。例えば前回配送した時刻及び次に配送すべき時刻を格納しておくと、一定の時間間隔をおいて配送

することができる。メモリモジュール部909に保持されるこれらの情報が、パケット手段805に対してあらかじめ決められた順序とタイミングで供給される。

【0037】

図11に配送スケジュールの調整例を示す。図11は、メモリモジュール部909の主要な部分だけを抜粋して示すもので、宛先、時間パラメータ、データ長から成るテーブルである。時間パラメータは、前回配送した時刻及び次に配送すべき時刻に関わる情報として、パケットの配送間隔時間を示す。

【0038】

配送スケジュール手段802は、プロセッサ102もしくは制御手段801から配送先の変更の指示を与えられると配送スケジュールを調整する。例えば、図11に示すように、宛先D'の挿入の指示を与えられると、宛先D'の受信者に関わる情報が配送先格納部901、受信者情報アドレス格納部902、配送データアドレス格納部903、配送データ長格納部904、配送時刻情報格納部905にそれぞれ格納され、スケジュール部908が受信者情報テーブル手段503または受信者情報管理テーブルを元に宛先D'の挿入場所を求め、メモリモジュール部909を更新する。図11では、宛先Aと宛先Bの間に宛先D'を挿入している。同様に宛先の削除も行いうることができる。図11において宛先Bの削除の指示を与えられると、宛先Bの受信者に関わる情報が配送先格納部901、受信者情報アドレス格納部902、配送データアドレス格納部903、配送データ長格納部904、配送時刻情報格納部905にそれぞれ格納され、スケジュール部908がメモリモジュール部909上の宛先Bに関する部分を削除する。

【0039】

次に、受信者情報テーブル手段803について説明する。受信者情報テーブル手段803は受信者毎の情報を受信者情報テーブルに格納、管理するものであって、パケット手段805がこの情報を用いてパケットを生成し、ネットワークへ送信する。

【0040】

図12に受信者情報管理テーブルの構成例を示す。受信者（受信者1、受信者

2 など) 毎の情報である受信者情報 1 (1 2 0 4)、受信者情報 2 (1 2 0 5) には、受信者のネットワークアドレス、使用しているプロトコル、ネットワーク制御情報などが格納される。また、パケットヘッダパターン 1 2 0 7 には、最初に受信者情報を設定するときに、固定情報となるものがパケット形式に変換されて格納されている。これにより、パケット手段 8 0 5 が受信者情報を用いてパケットを生成するときに、パケット形式に変換されているものを用いてパケットを生成することができるため、処理を効率化することができる。変更情報リスト 1 2 0 6 にはパケット長、エラー検出のためのチェックサム、プロトコルに依存して定義されるシーケンス番号やタイムスタンプ値など、パケット毎に変更すべきものがリストとして記される。RTP RFC 1 8 8 9 を用いた場合、パケットヘッダとして必要な情報は IP ヘッダ、UDP ヘッダ、RTP ヘッダである (RTP / IP v 4)。これらの情報のうち、受信者についてのパケット毎に変わる情報は図 1 3 に示す網掛け部分で、それ以外の部分が固定情報である。固定情報部分については受信者情報管理テーブルに例えばヘッダとデータとからなるパケット形式で格納され、変更部分については、パケット手段 8 0 5 が変更情報リスト 1 2 0 6 に基づいてこれらの情報を毎回算出し、更新する。

【 0 0 4 1 】

次に、バッファ手段 8 0 4 について説明する。バッファ手段 8 0 4 は配送サーバのプロセッサ 1 0 2 から転送される生のデータ、もしくは配送データ入力装置 5 0 2 で取得された生データ、である配送データを格納するものである。パケット手段 8 0 5 はバッファ手段 8 0 4 からデータを読み出しパケットを生成する。一般に受信者毎にデータ転送長は異なるが、本発明ではパケット手段 8 0 5 が配送データから異なるデータ転送長のパケットを容易に生成できるように配送データをブロックに分割し、更に IP チェックサム計算を容易にするための補助情報を持たせる。

【 0 0 4 2 】

図 1 4 にバッファ手段 8 0 4 の構成例を示す。配送データは、データ 1 (1 4 0 2)、データ 2 (1 4 0 3)、などのデータブロックに分割されて保持される。配送データブロック長 1 4 0 4 は、該当ブロック内のデータ長である。参照力

ウンタ 1 4 0 5 は配送スケジュール手段 8 0 2 において配送すべくスケジュールされている項目から該当ブロックを参照している数である。この参照数が 0 でない場合、該当データブロックに関する配送が全て終わっていないことになる。0 の場合はこのブロックを上書きしてもよいことになる。ブロックチェックサム 1 4 0 6 は該当ブロックのデータを 1 6 b i t 単位で 1 の補数和演算をした結果である。例えば 2 個のデータブロック全体の I P チェックサム値はそれぞれのブロックチェックサム値を 1 の補数和することで得られる。このためパケット手段 8 0 5 は全てのデータについて計算することなくチェックサム値を計算することができる。配送データブロック 1 4 0 7 はデータが格納される。以下にバッファ手段 8 0 4 における配送データの管理について（図 1 5）、ブロックチェックサム 1 4 0 6 について（図 1 6）それぞれ詳しく説明する。

【 0 0 4 3 】

図 1 5 にバッファ手段 8 0 4 における配送データの管理をフローチャートに示す。まず S 1 5 0 1 でプロセッサ 1 0 2 から配送データが供給されると配送データを分割する。S 1 5 0 2 で参照カウンタ 1 4 0 5 を初期化する。S 1 5 0 3 で配送スケジュール手段 8 0 2 からデータブロックを参照されると、該当する参照カウンタ 1 4 0 5 が + 1 され、S 1 5 0 4 で、該当するデータブロックの配送が完了すると対応する参照カウンタ 1 4 0 5 が - 1 される。S 1 5 0 5 で参照カウンタ 1 4 0 5 が 0 かどうか判断され、0 でなければ S 1 5 0 3 に戻り、0 であればそのデータブロックのデータは破棄可能として破棄され、新たなデータの格納に使用される。

【 0 0 4 4 】

図 1 6 にブロックチェックサムからパケット手段 8 0 5 がパケットのチェックサム値を算出する方法を示す。まず、（1）で配送データを分割する。次に（2）で分割したデータブロック毎にチェックサムを計算する。これは 1 6 b i t 単位で 1 の補数和演算した結果である。そして（3）は、パケット手段 8 0 5 においてチェックサム値を求めるのをそれぞれ示したものである。（3）a は、ブロック①とブロック②を 1 つのパケットとして送出する場合を示したもので、チェックサム α は①と②のチェックサムを 1 の補数和演算して得られる。（3）b は

、ブロック③を1つのパケットとして送出する場合を示したもので、チェックサム β は③のチェックサムをそのままチェックサムとする。(3) cは、ブロック④、ブロック⑤、ブロック⑥を1つのパケットとして送出する場合を示したもので、チェックサム γ は④と⑤と⑥のチェックサムを1の補数和演算して得られる。(3) a' は、ブロック①とブロック②の一部(②')を1つのパケットとして送出する場合を示したもので、チェックサム δ は、まず②'のチェックサムを求め、その後①のチェックサムと合わせて算出される。このようにパケット手段805でチェックサムを求める場合、あらかじめ計算された各ブロック毎のチェックサムからパケット毎のチェックサムを算出するため、処理を効率化できる。尚、上記の説明では1の補数和演算によって得られるチェックサムについて説明したが、CRC(巡回符号)のような、他のエラー検出符号を用いることも可能である。

【0045】

次に、パケット手段805について説明する。パケット手段805は、配送スケジュールに従って、バッファ手段804に格納される配送データと受信者情報テーブル手段803をもとにパケットを生成し、ネットワークに送信する。パケット手段805の処理は専用のマイクロプロセッサ、専用のハードウェアを用いて高速化させることが可能である。

【0046】

図17にパケット手段805の詳細な構成を示す。パケット手段は受信者情報部1701、配送データ部1702、配送スケジュール部1703、パケット生成部1704、プロセッサ部1705、ネットワークインタフェース部1706から成る。受信者情報部1701は受信者情報テーブル手段803に、配送データ部1702はバッファ手段804に、配送スケジュール部1703は配送スケジュール手段802にそれぞれ接続している。受信者情報部1701と配送データ部1702はバッファメモリで構成され、データが格納される。配送スケジュール部1703に配送スケジュールが供給されると、パケット生成部1704は受信者情報部1701から受信者のパケットヘッダを取得し、同様に配送データ部1702から配送データを取得し、双方を結合してパケットを生成する。この

際、パケットヘッダには固定部分と変更部分があるため、図 1 8 に示すように、変更情報があるか否か S 1 8 0 2 で判断され、変更情報がある場合は S 1 8 0 3 で変更情報をパケットヘッダの形式に加工し、S 1 8 0 4 でパケットヘッダを元にパケットを生成する。そして、生成されたパケットはネットワークインタフェース部 1 7 0 6 を介してネットワークに送出される。

【 0 0 4 7 】

以上のように図 8 に示す本発明の配送手段 1 0 5 の各部分について図 9 ～図 1 8 を用いて詳細に説明したが、図 1 9 に配送手段 1 0 5 内の各部が連動する様子を示す。今、図 1 9 に示す配送スケジュール手段 8 0 2 のメモリモジュール部 9 0 9 の配送 1 に対応する受信者にパケットを送信する (1 9 0 1) 、とする。配送 1 に対応する受信者情報を取得するための識別情報 1 9 0 2 は受信者情報テーブル手段 8 0 3 の A を示しており、また、配送データを取得するための識別情報 1 9 0 3 はバッファ手段 8 0 4 におけるアドレスを示している。これにより、パケット手段 8 0 5 の配送スケジュール部 1 7 0 1 に、“配送 1 に配送する” という配送スケジュールが供給されると、パケット手段 8 0 5 は受信者情報部 1 7 0 1 を介して受信者情報テーブル手段 8 0 3 から対応するパケットヘッダを取得し (1 9 0 4) 、同様に配送データ部 1 7 0 2 を介して対応する配送データを取得 (1 9 0 5) する。そして、パケット生成部 1 7 0 4 でパケットヘッダと配送データを結合してパケット 8 0 6 を生成してネットワークに送出する。尚、受信者情報テーブル手段 8 0 3 から取得されるパケットヘッダの変更部分に関しては、パケット生成部 1 7 0 4 で計算される。

【 0 0 4 8 】

ここで、本方式と従来方式を比較する。今、受信者数が X、ネットワークアダプタ、すなわち本方式では配送手段、従来方式では N I C、を K 枚使用すると仮定すると、I / O バス負荷は K / X 、それぞれのネットワークアダプタで処理する受信者数は X / K となる。また配送サーバのプロセッサの処理は受信者管理、データ準備、各ネットワークアダプタへの一次配送だけになる。本方式では、受信者管理は受信者数 X に比例するが、データ準備は一種類の配送データにつき 1 であり、データの一次配送は K に比例するのに対して従来方式では全て X に比例

する。受信者管理処理は配送の開始時間と終了時にのみ行われるため、一定の時間をみたときの負荷は配送処理に比べて非常に小さいと考えられる。従って、本方式のプロセッサ負荷は従来方式に比べて K/X 以下になると考えられる。このように本方式によれば、配送サーバのプロセッサ負荷を低減させることができるばかりか、実時間性の強い配送処理を複数のネットワークアダプタに分散できるため、個々のネットワークアダプタの処理負荷も低減可能である。更に I/O バスの負荷も低減可能となる。

【 0 0 4 9 】

さて、以上ではパケットの送出について述べたが、受信パケットを処理する機能を備える配送手段 1 0 5 を図 2 0 に示す。配送手段 1 0 5 の配送処理 1 0 6、配送データ入力装置 5 0 2、バッファメモリ 1 0 7、NIC 1 0 8 は上述した通りである。受信したパケットは NIC 1 0 8 から受信処理手段 2 0 0 1 へ送られ、識別処理手段 2 0 0 2 において配送手段 1 0 5 内で処理できるか否かを識別される。処理できなければサーバプロセッサへ送り、処理できれば配送手段 1 0 5 で処理される。

【 0 0 5 0 】

以上、本発明の実施例をインターネットに言及して説明したが、本発明はインターネットに限定されるものではない。

また、配送手段 1 0 5 は本発明で述べた配送手段 1 0 5 の処理に限定されることなく、さまざまなソフトウェアを配送手段 1 0 5 上で実行させ、インテリジェント NIC (Network Interface Card) とすることも可能である。図 2 1 にその例を示す。配送サーバ 2 1 0 1 の配送手段 2 1 0 2 は、上述の配送手段 1 0 5 と同様の処理をするストリーミング 2 1 0 3 の他に、サーバプロセッサが行っていた処理の一部を配送手段 2 1 0 2 内で行うソフトウェアであるサーバ機能 A 2 1 0 4、サーバ機能 B 2 1 0 5、サーバ機能 C 2 1 0 6 を含む。図 2 1 では、配送サーバ 2 1 0 1 のプロセッサ、I/O バスなどのハードウェアは、その他のハードウェア 2 1 0 7 に含まれる。このように、配送手段 2 1 0 2 でストリーミング処理以外のソフトウェアを実行することで、配送サーバ 2 1 0 1 のプロセッサ負荷等をより低減することが可能となる。

【 0 0 5 1 】

(付記 1) 送信者が送信者側に設けられたプロセッサを用いて複数の受信者に対して受信者毎にデータを送信することによって放送型通信を行う情報処理装置であって、

前記プロセッサから入出力バスを介して供給される受信者の情報と配送データに基づいて、前記受信者毎に対応するパケットを生成し、接続するネットワークに送信する配送手段、

前記配送手段を前記入出力バスを介して前記情報処理装置の前記プロセッサに接続する手段と、

を備えることを特徴とする情報処理装置。

(付記 2) 付記 1 記載の情報処理装置であって、

複数の前記配送手段を備え、

前記情報処理装置のプロセッサが前記入出力バスを介して前記複数の配送手段に同一の配送データを供給し、前記配送手段毎に異なる受信者情報を供給する、ことを特徴とする情報処理装置。

(付記 3) 付記 1 記載の情報処理装置であって、

前記配送手段は、

パケットの送信順序と送信タイミングとからなる配送スケジュールを制御する配送スケジュール手段と、

前記受信者の情報を管理する受信者情報管理手段と、

前記配送データを格納管理するバッファ手段と、

前記配送スケジュールに従い、指定された受信者に対してパケットを生成し、送信するパケット手段と、

を備えることを特徴とする情報処理装置。

(付記 4) 付記 3 記載の情報処理装置であって、

前記配送手段は、更に、前記情報処理装置のプロセッサから配送データの供給を受けることなく配送データを取得する配送データ入力手段を備えることを特徴とする情報処理装置。

(付記 5) 付記 3 記載の情報処理装置であって、

複数の前記配送手段と、

前記情報処理装置のプロセッサから配送データの供給を受けることなく、配送データを取得する配送データ入力手段を備える配送入力手段を少なくとも一つ備え、

前記入力配送手段から前記入出力バスを介して他の前記配送手段へ配送データを供給することを特徴とする情報処理装置。

(付記 6) 付記 3 記載の情報処理装置であって、

前記配送スケジュール手段は、前記受信者情報管理手段が管理する情報から特定の受信者の情報を取得するための識別情報と、前記特定の受信者に対して配送するデータを前記バッファ手段から取得するための識別情報と、パケットの送信に係わる情報とを、前記パケット手段に対して予め決められた順序とタイミングで供給することを特徴とする情報処理装置。

(付記 7) 付記 6 記載の情報処理装置であって、

前記パケットの送信に係わる情報は、前回パケットを送信した時刻と次にパケットを送信すべき時刻に係わる情報を含むことを特徴とする情報処理装置。

(付記 8) 付記 3 記載の情報処理装置であって、

前記受信者の情報は、前記パケット手段が各受信者に対応するパケットを生成するために必要な情報を含み、

前記受信者情報管理手段は、前記パケット手段から指定された受信者に対応する前記受信者の情報を前記パケット手段に転送することを特徴とする情報処理装置。

(付記 9) 付記 8 記載の情報処理装置であって、

前記受信者の情報は、前記配送データをネットワークに送信するときに必要なとなるパケットヘッダ情報の形態からなり、

前記受信者の情報は常に固定的な部分とパケット毎に変更される部分を識別する変更情報を含む、

ことを特徴とする情報処理装置。

(付記 10) 付記 9 記載の情報処理装置であって、

前記パケット手段は、前記変更情報に基づいて変更される部分のみ情報を加工

し、固定部分は前記受信者の情報の対応する部分をそのまま用いてパケットヘッダ情報を作成し、前記配送データと前記パケットヘッダ情報を結合してパケットを生成し、ネットワークに送信することを特徴とする情報処理装置。

(付記 1 1) 付記 3 記載の情報処理装置であって、

前記バッファ手段は、前記配送データを管理するための管理情報と、前記パケット手段がパケットを生成するための補助情報とを、前記配送データに付加して管理することを特徴とする情報処理装置。

(付記 1 2) 付記 1 1 記載の情報処理装置であって、

前記バッファ手段は、前記配送データを一定の長さの配送データブロックに分割し、各前記配送データブロックに前記管理情報と前記補助情報を付加して管理することを特徴とする情報処理装置。

(付記 1 3) 付記 1 2 記載の情報処理装置であって、

前記管理情報は、前記配送データブロックの長さに係わる情報と前記配送データブロックを配送すべき受信者数に係わる情報であり、

前記補助情報は、前記配送データブロックのエラー検出符号である、
ことを特徴とする情報処理装置。

(付記 1 4) 付記 1 3 記載の情報処理装置であって、

前記配送データブロックを配送すべき受信者数に係わる情報は、前記配送データブロックを必要とする受信者数を示すカウンタでそれぞれ表現され、

前記配送スケジュール手段が受信者に配送するデータとして該当する前記配送データブロックを参照する毎に対応する前記カウンタを 1 増加し、

前記パケット手段が該当する前記配送データブロックの配送を完了する毎に対応する前記カウンタを 1 減少させ、

前記バッファ手段が、前記カウンタを 1 減少させた結果が 0 になった時に、対応する前記配送データブロックを破棄する、

ことを特徴とする情報処理装置。

(付記 1 5) 付記 1 3 記載の情報処理装置であって、

前記エラー検出符号は、前記配送データブロックのチェックサムである、
ことを特徴とする情報処理装置。

(付記 1 6) 付記 1 5 記載の情報処理装置であって、

前記チェックサムは、前記配送データブロックを予め決められた 1 6 b i t 以上の長さ単位の 1 の補数和を行った結果である、

ことを特徴とする情報処理装置。

(付記 1 7) 付記 3 記載の情報処理装置であって、

前記配送手段は、更に、

ネットワークからパケットを受信する受信手段と、

前記受信手段で受信した前記パケットを、該配送手段で処理できるか否か識別する受信パケット識別手段と、

前記受信パケット識別手段で処理できると判断された前記パケットを処理し、処理できないと判断された前記パケットを前記情報処理装置のプロセッサに転送する受信パケット処理手段と、

を備えることを特徴とする情報処理装置。

(付記 1 8) 単数の送信者が、複数の受信者に対して受信者毎にデータを送信することによって放送型通信を行う情報処理装置に設置されるネットワークアダプタであって、

パケットの送信順序と送信タイミングとからなる配送スケジュールを制御する配送スケジュール手段と、

前記受信者の情報を管理する受信者情報管理手段と、

配送データを格納管理するバッファ手段と、

前記配送スケジュールに従い、指定された受信者に対してパケットを生成し、送信するパケット手段と、

を備えることをネットワークアダプタ。

(付記 1 9) 付記 1 8 記載のネットワークアダプタであって、

前記情報処理装置のプロセッサから配送データの供給を受けることなく配送データを取得する配送データ入力手段を備える、

ことを特徴とするネットワークアダプタ。

(付記 2 0) 付記 1 8 記載のネットワークアダプタであって、

ネットワークからパケットを受信する受信手段と、

前記受信手段で受信した前記パケットを、該ネットワークアダプタで処理できるか否か識別する受信パケット識別手段と、

前記受信パケット識別手段で処理できると判断された前記パケットを処理し、処理できないと判断された前記パケットを前記情報処理装置のプロセッサに転送する受信パケット処理手段と、

を備えることを特徴とするネットワークアダプタ。

(付記 2 1) 放送型通信を行う送信者側情報処理装置がパケットを生成して、送信する方法であって、

前記情報処理装置のネットワークアダプタが、前記情報処理装置のプロセッサから供給される受信者の情報と配送データに基づいて、受信者毎に対応するパケットを生成し、送信する過程を含むことを特徴とする方法。

(付記 2 2) 付記 2 1 記載の方法であって、

前記受信者の情報を、予めパケットヘッダ情報の形態にして保持する過程と、前記配送データをブロックに分割し、各ブロックに対応する管理情報とパケットを生成するための補助情報とを付加して保持する過程と、

パケットの送信順序と送信タイミングとからなる配送スケジュールに従って、指定された受信者に対してパケットを生成し、送信する過程と、

を含むことを特徴とする方法。

【 0 0 5 2 】

【発明の効果】

以上詳細に説明したように、本発明によれば、放送型通信において送信者側である配送サーバは、配送品質を低下させずに、同時にサービス可能な受信者数を増大させることができる。より具体的には、配送サーバのプロセッサ負荷及び I / O 負荷を低減し、配送品質を受信者毎に対応して調整することができる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

本発明の原理構成を示す図である。

【図 2】

図 1 に示した配送サーバの処理の流れを示す図である。

【図 3】

本発明の原理構成の応用（その 1）を示す図である。

【図 4】

図 3 に示した配送サーバの処理の流れを示す図である。

【図 5】

本発明の原理構成の応用（その 2）を示す図である。

【図 6】

図 5 に示した配送サーバの処理の流れを示す図である。

【図 7】

本発明の原理構成の応用（その 3）を示す図である。

【図 8】

配送手段の実施例を示す図である。

【図 9】

配送スケジュール手段の詳細な説明をする図である。

【図 10】

配送スケジュール手段のメモリモジュール部の構成例を示す図である。

【図 11】

配送スケジュールの調整例を示す図である。

【図 12】

受信者情報管理テーブルの構成例を示す図である。

【図 13】

RTP / IP v 4 のパケットヘッダを示す図である。

【図 14】

バッファ手段の構成例を示す図である。

【図 15】

配送データの管理について説明する図である。

【図 16】

チェックサムの求め方を説明する図である。

【図 17】

パケット手段の詳細な説明をする図である。

【図 1 8】

パケットを生成する処理の流れを示す図である。

【図 1 9】

配送手段内の動作を説明する図である。

【図 2 0】

受信パケットの処理を説明する図である。

【図 2 1】

本発明の配送手段の応用を示す図である。

【図 2 2】

放送型通信を示す図である。

【図 2 3】

マルチキャストによる放送型通信を示す図である。

【図 2 4】

ユニキャストによる放送型通信を示す図である。

【図 2 5】

放送型通信におけるマルチキャストとユニキャストの比較を示す図である。

【図 2 6】

従来方式における配送サーバの構成を示す図である。

【符号の説明】

1 0 1	配送サーバ
1 0 2	プロセッサ
1 0 3	バッファメモリ
1 0 4	I / O バス
1 0 5	配送手段
1 0 6	配送処理
1 0 7	バッファメモリ
1 0 8	N I C (N e t w o r k I n t e r f a c e C a r d)
4 0 8	配送手段 1 0 5 - 1 の処理

4 0 9	配送手段 1 0 5 - 2 の処理
4 1 0	配送手段 1 0 5 - 3 の処理
5 0 1	入力配送手段
5 0 2	配送データ入力装置
7 0 1	配送手段または入力配送手段
7 0 2	入力配送手段
8 0 1	制御手段
8 0 2	配送スケジュール手段
8 0 3	受信者情報テーブル手段
8 0 4	バッファ手段
8 0 5	パケット手段
8 0 6	パケット
8 0 7	受信者管理情報
8 0 8	配送データ
9 0 1	配送先格納部
9 0 2	受信者情報アドレス格納部
9 0 3	配送データアドレス格納部
9 0 4	配送データ長格納部
9 0 5	配送時刻情報格納部
9 0 6	格納部 (その他)
9 0 7	格納部 (その他)
9 0 8	スケジュール部
9 0 9	メモリモジュール部
1 0 0 1	配送 1
1 0 0 2	配送 2
1 0 0 3	受信者情報アドレス
1 0 0 4	配送データアドレス
1 0 0 5	配送データ長
1 0 0 6	配送時刻情報

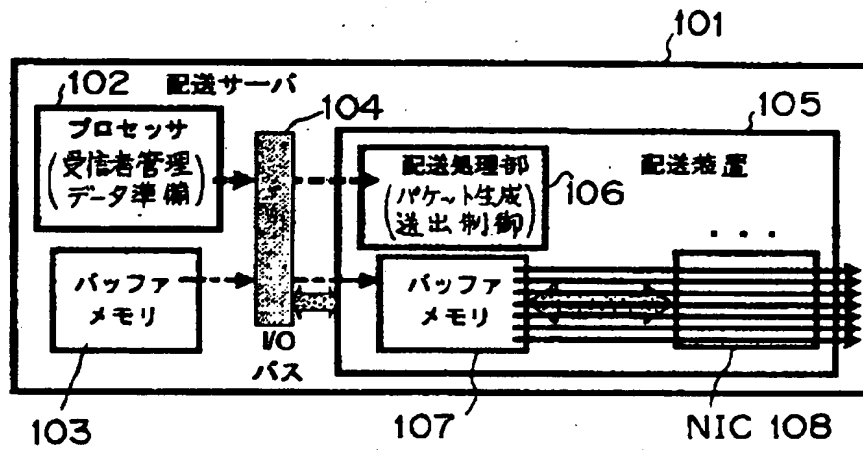
1201	受信者情報メモリ
1202	受信者1
1203	受信者2
1204	受信者情報1
1205	受信者情報2
1206	変更情報リスト
1207	パケットヘッダパターン
1401	バッファメモリ
1402	データ1
1403	データ2
1404	配送データブロック長
1405	参照カウンタ
1406	ブロックチェックサム
1407	配送データブロック
1701	受信者情報部
1702	配送データ部
1703	配送スケジュール部
1704	パケット生成部
1705	プロセッサ部
1706	ネットワークインタフェース部
1901	配送指示
1902	識別情報
1903	識別情報
1904	データ出力
1905	データ出力
2001	受信処理手段
2002	識別処理手段
2101	配送サーバ
2102	配送手段

2103	ストリーミング
2104	サーバ機能A
2105	サーバ機能B
2106	サーバ機能C
2107	その他のハードウェア
2201	送信者
2202	インターネット
2203	受信者
2204	受信者
2301	送信者
2302	インターネット
2303	受信者
2304	受信者
2401	送信者
2402	インターネット
2403	受信者
2404	受信者
2601	配送サーバ
2602	プロセッサ
2603	バッファメモリ
2604	I/Oバス
2605	NIC (Network Interface Card)
2606	NIC (Network Interface Card)

【書類名】 図面

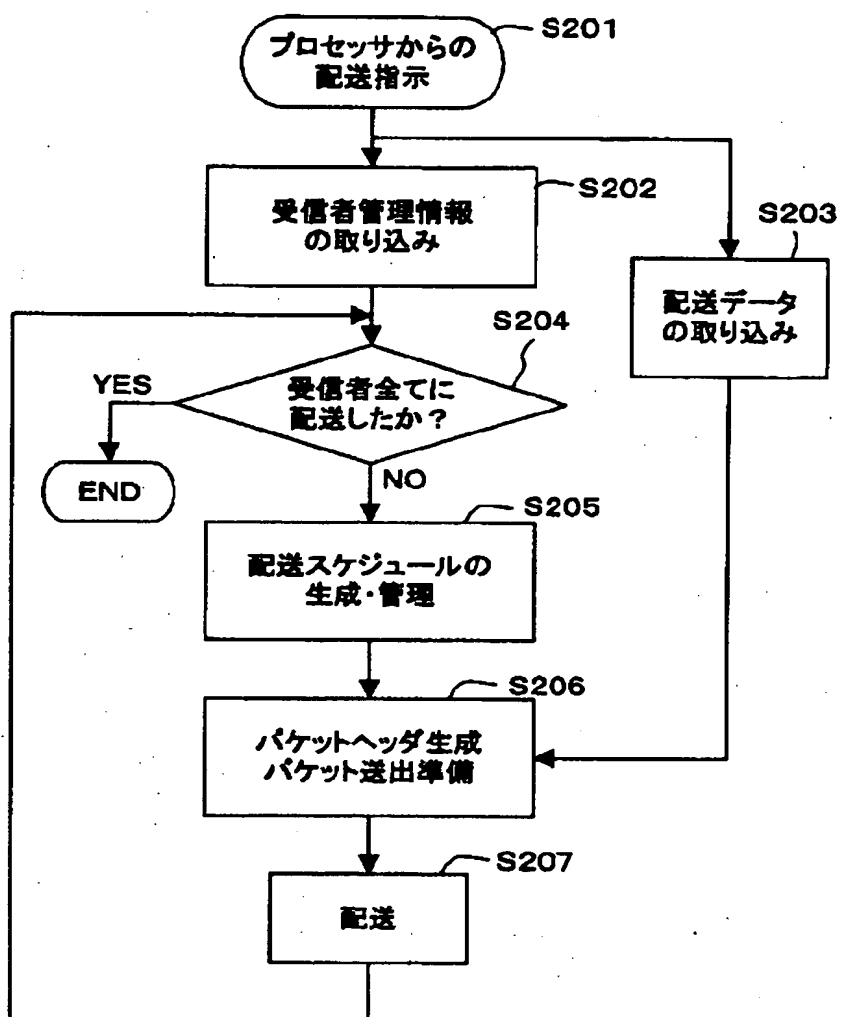
【図1】

本発明の原理構成



【図 2】

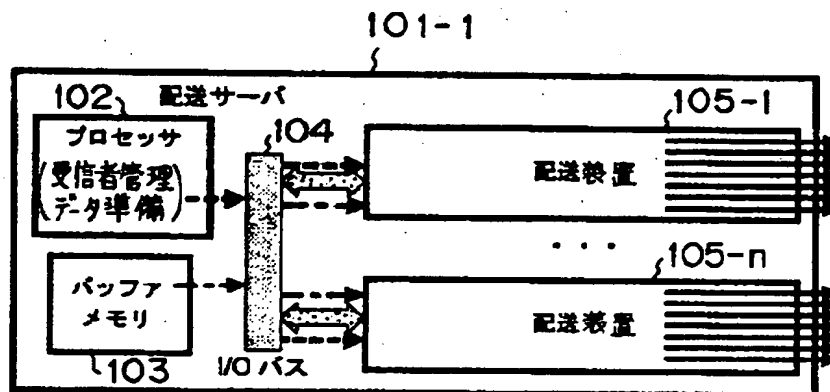
図1に示した配送サーバの処理の流れ



【図3】

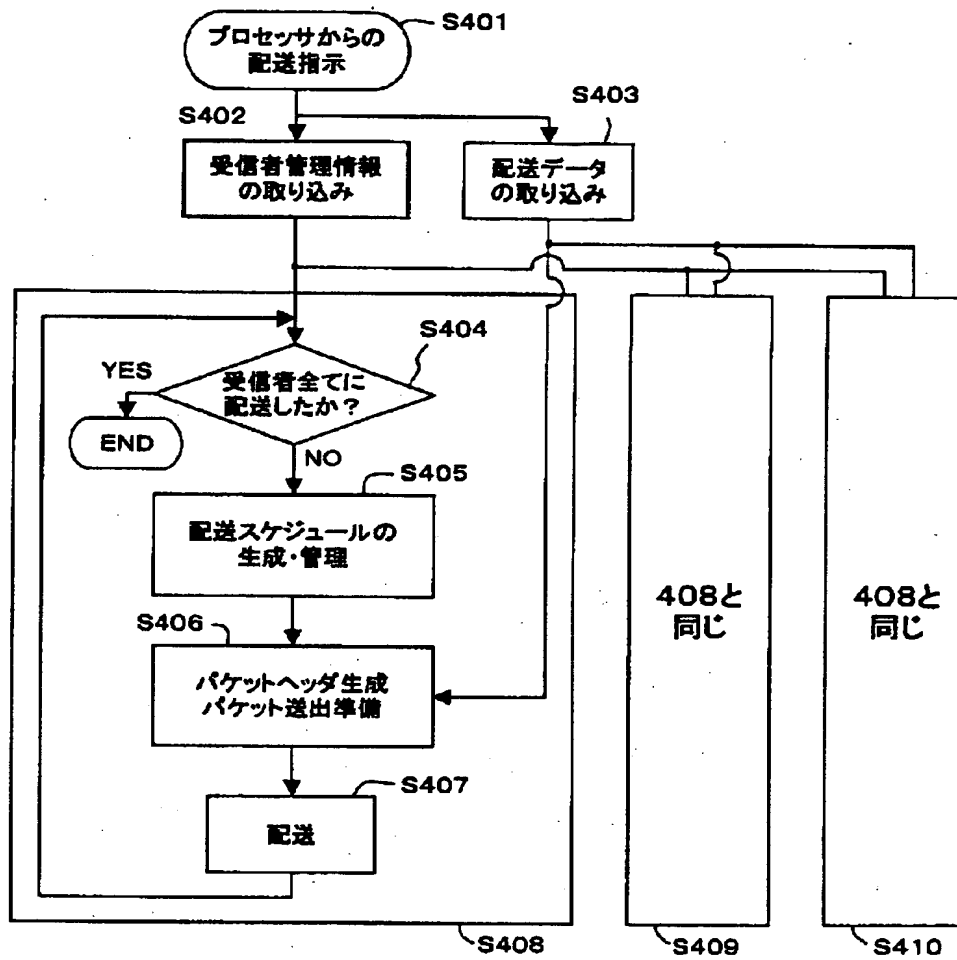
本発明の原理構成の応用

(その1)



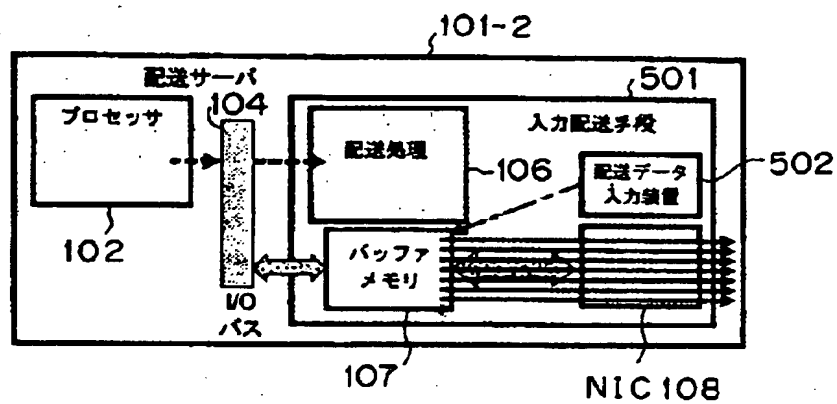
【図 4】

図3に示した配送サーバの処理の流れ



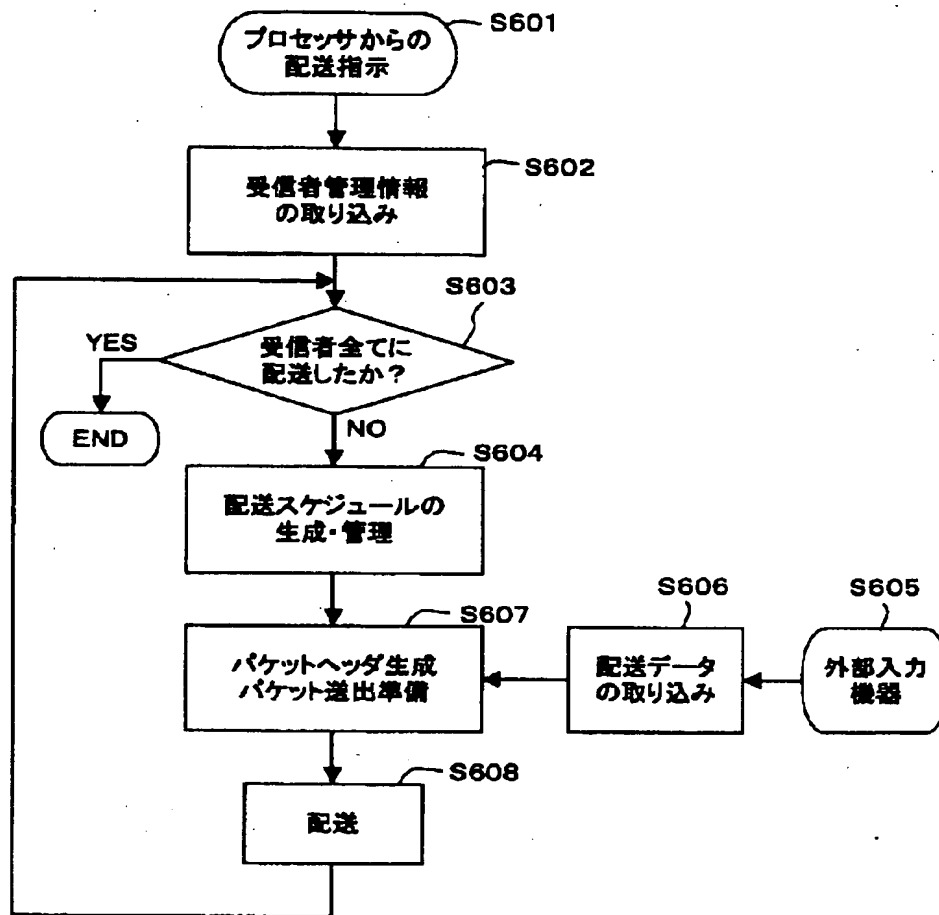
【図 5】

本発明の原理構成の応用
(その 2)



【図 6】

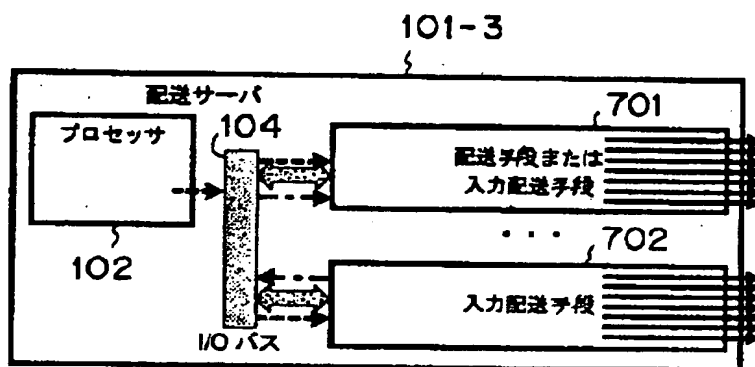
図5に示した配送サーバの処理の流れ



【図 7】

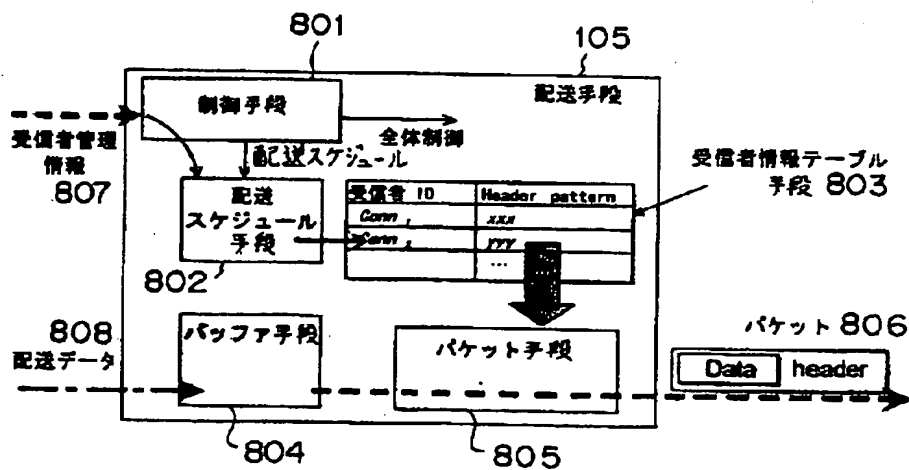
本発明の原理構成の応用

(その 3)



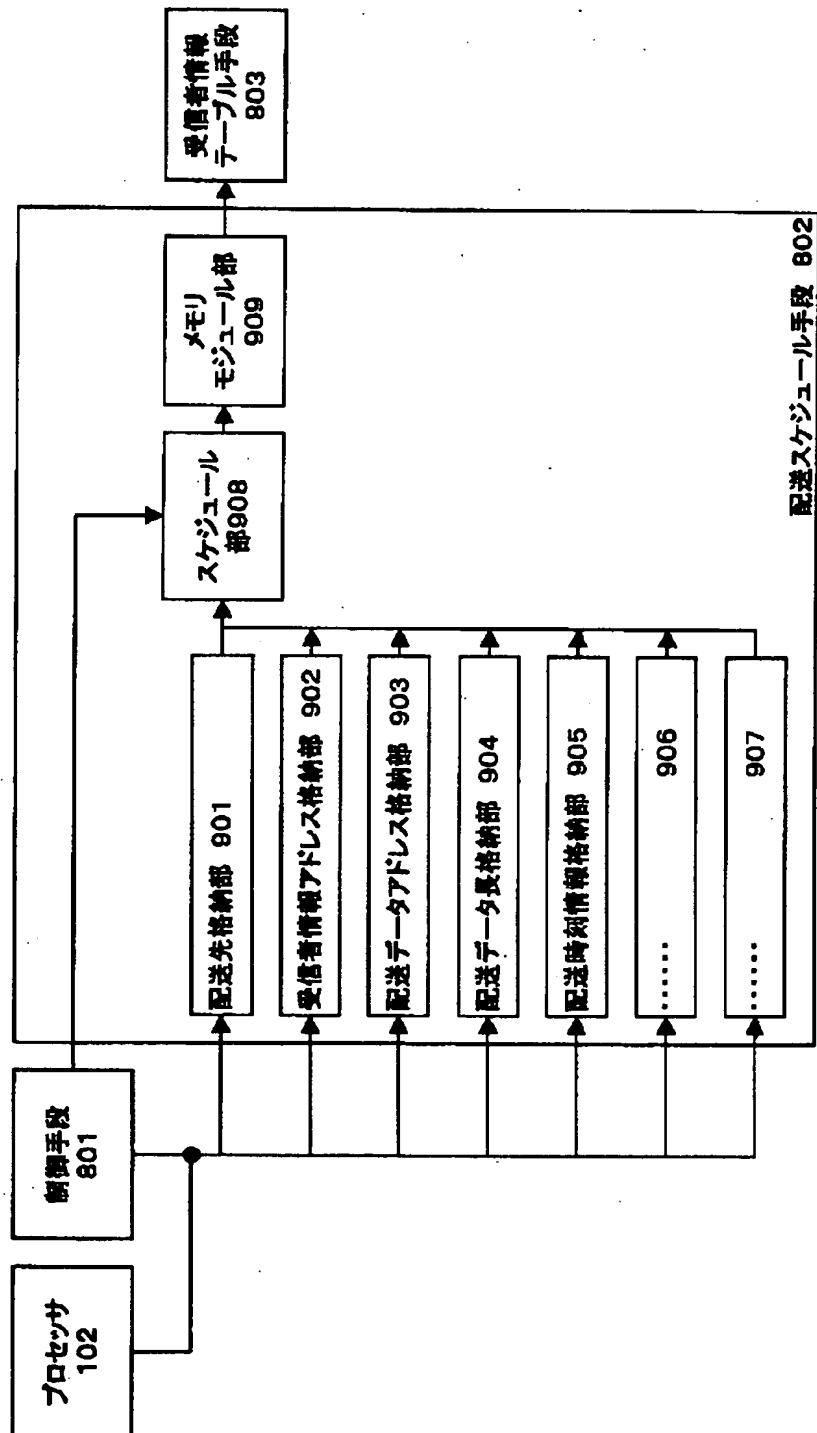
【図 8】

配送手段の実施例



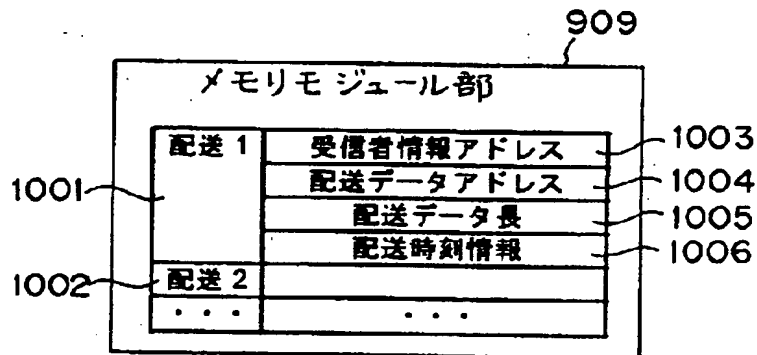
【図9】

配送スケジュール手段の詳細な説明



【図 10】

配送スケジュール手段のメモリモジュール部の構成例



【図 11】

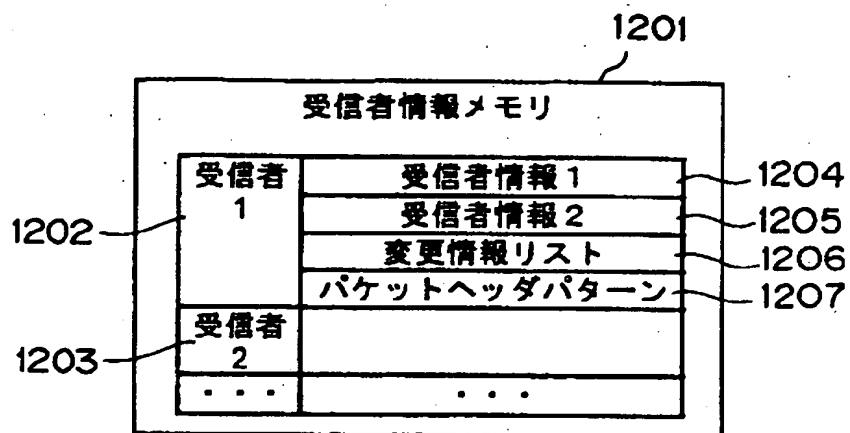
配送スケジュールの調整例

宛先	時間パラメータ	データ長
A	1ms	512Kbyte
B	5ms	512Kbyte
A	0ms	512Kbyte
B	5ms	512Kbyte
C		1500Kbyte
⋮	⋮	⋮

D }

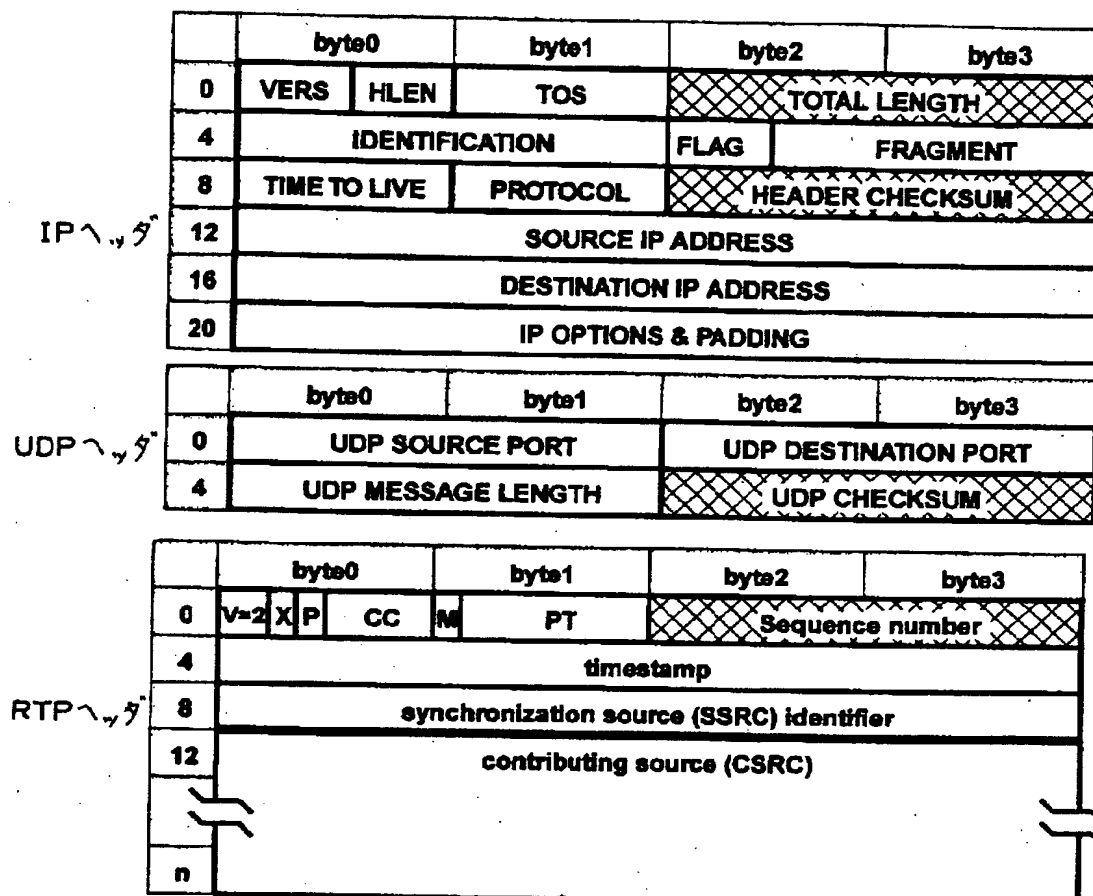
【図 1 2】

受信者情報管理テーブルの構成例



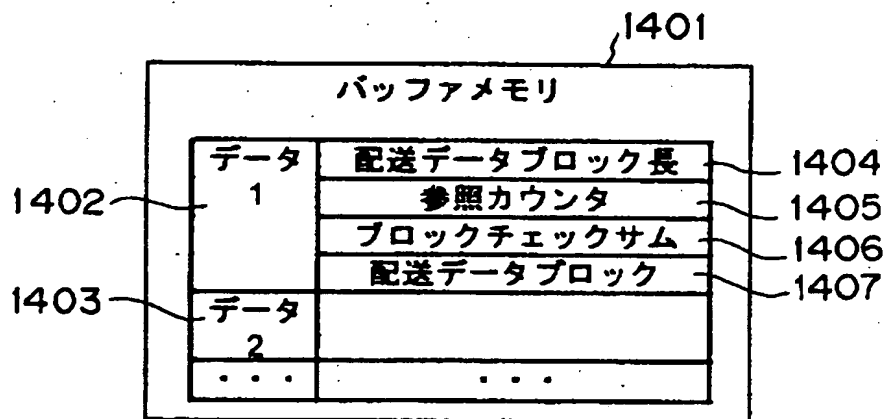
【図13】

RTP/IP V4 のパケットのヘッダ



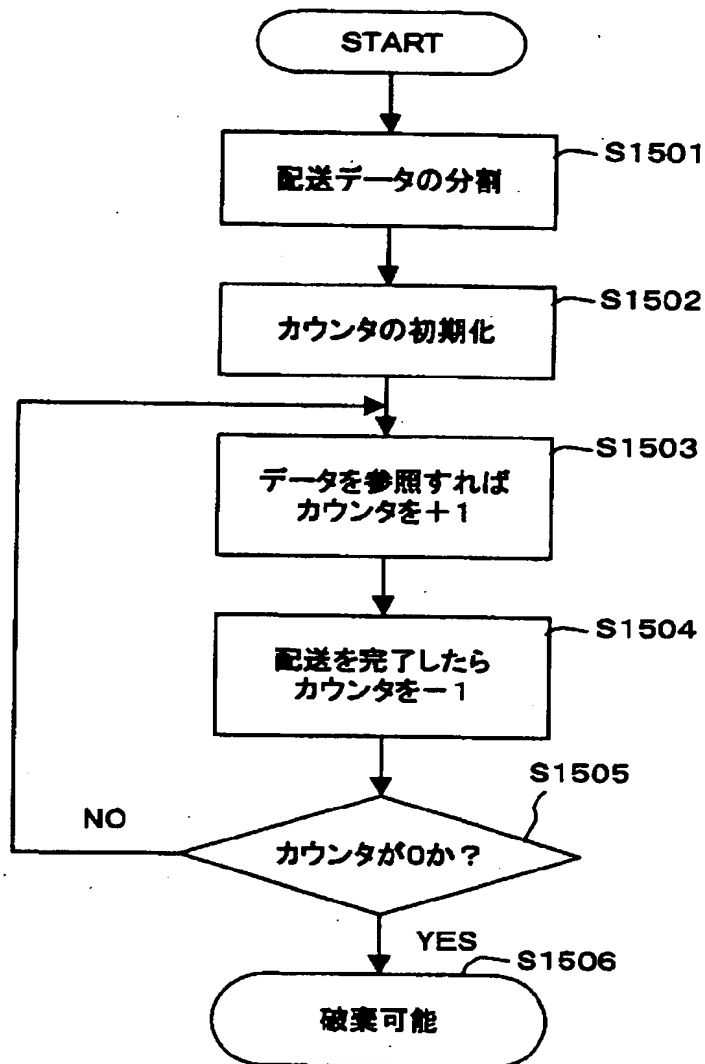
【図14】

バッファ手段の構成例



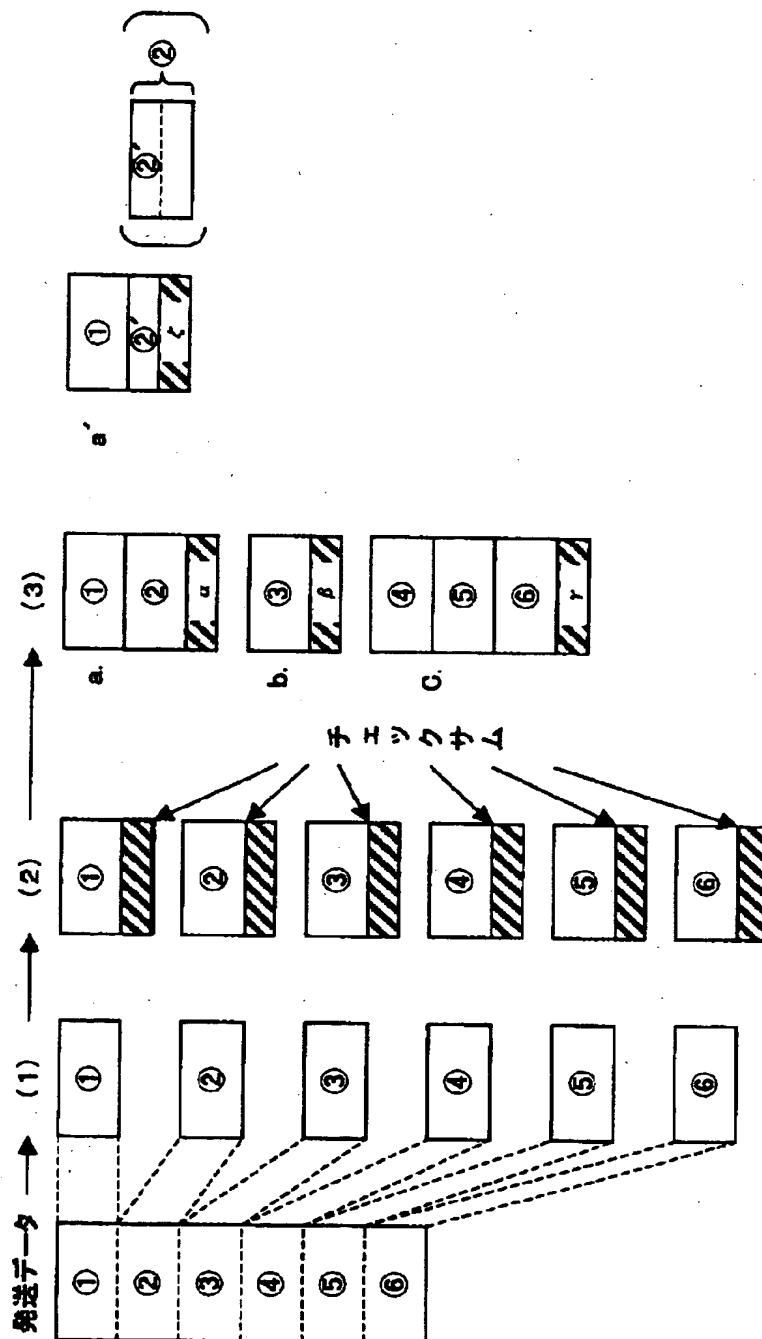
【図15】

配送データの管理について説明する図



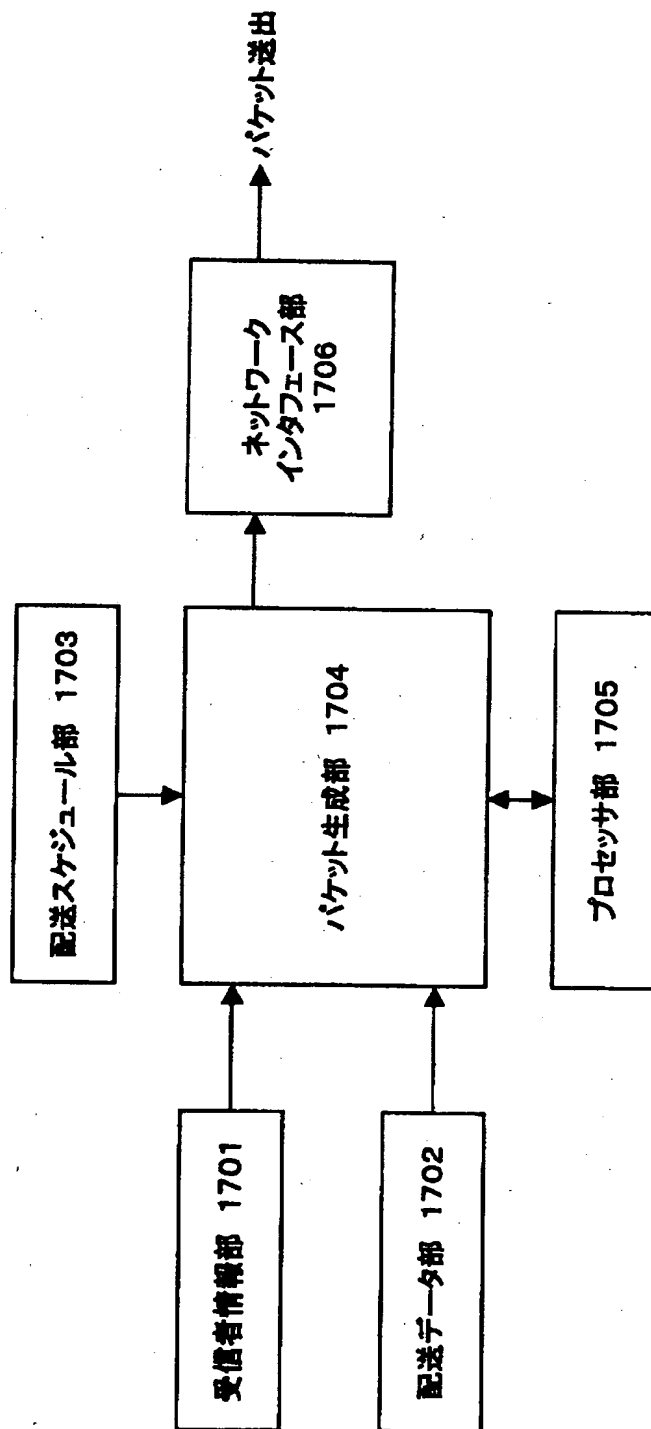
【図 16】

チェックサムの求め方を説明する図



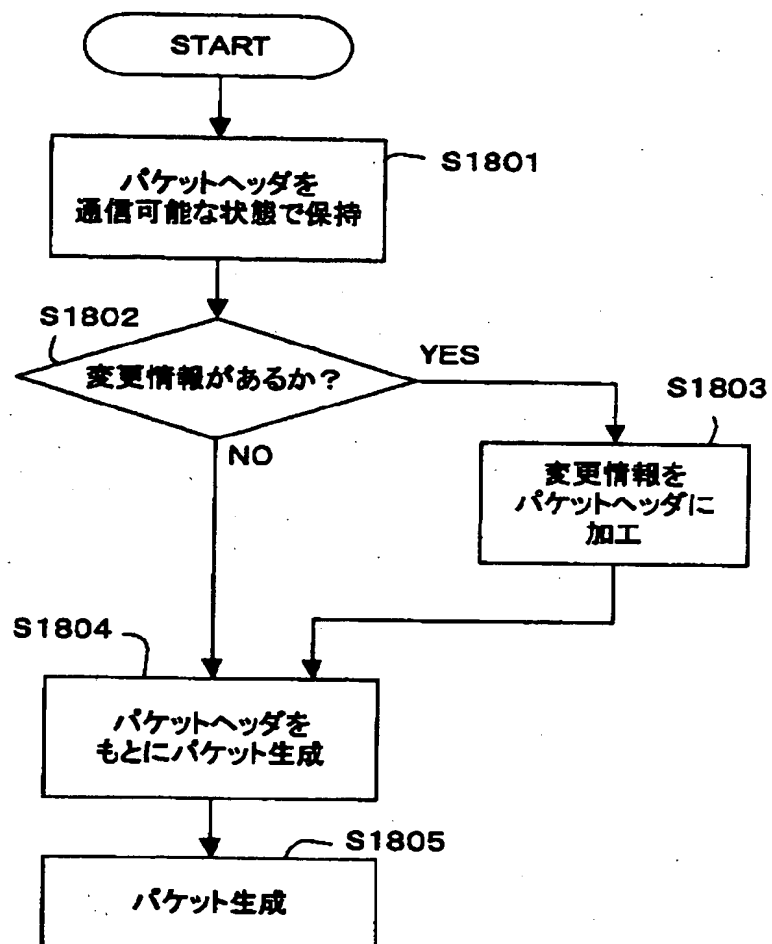
【図 17】

パケット手段の詳細な説明



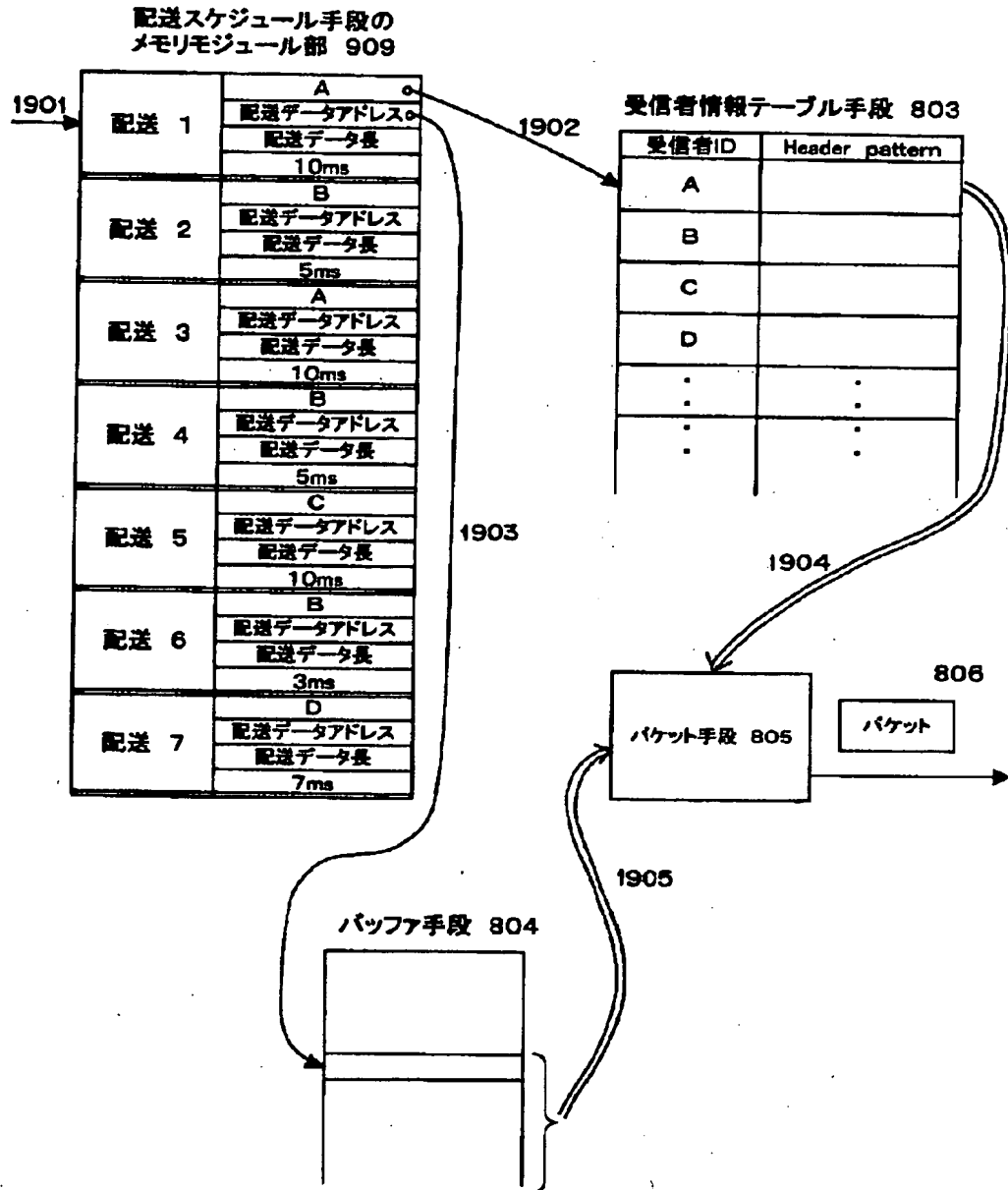
【図18】

パケットを生成する処理の流れ



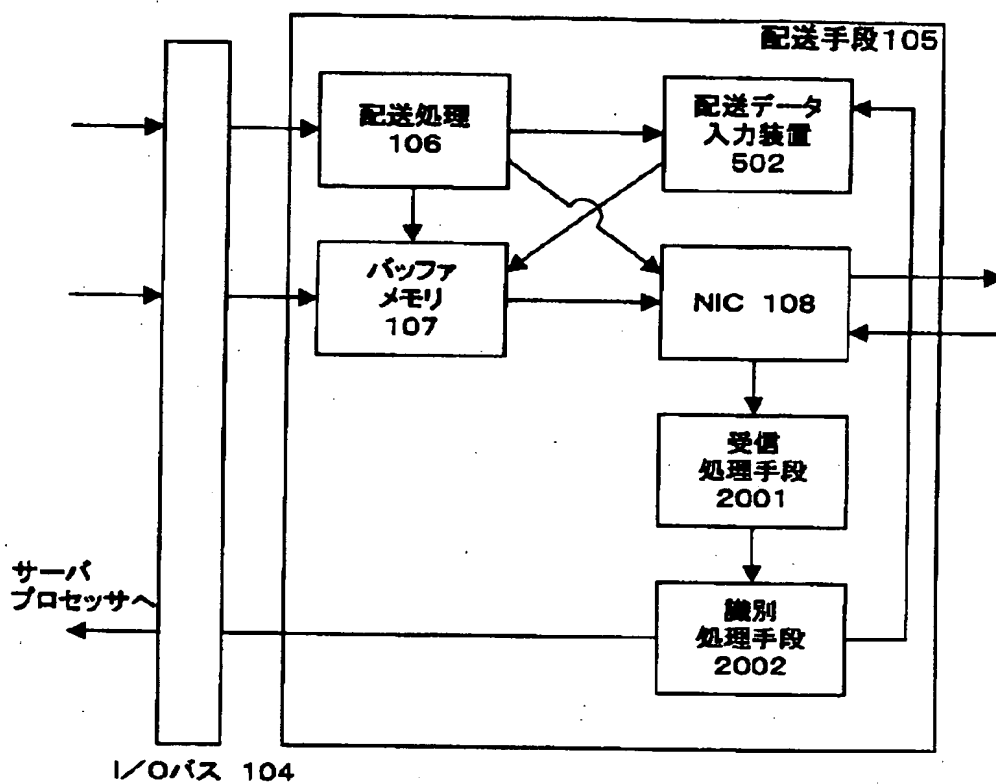
【図19】

配送手段内の動作を説明する図



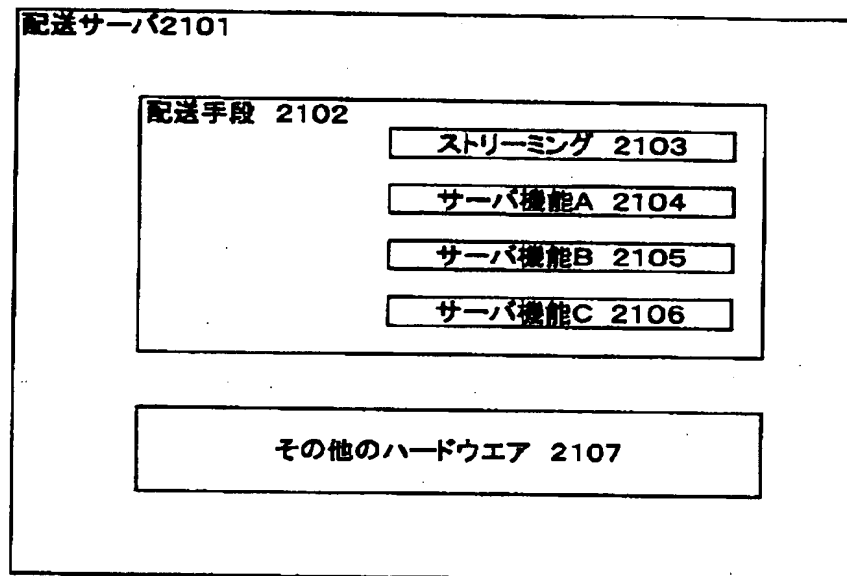
【図20】

受信パケットの処理機能をもつ配送手段



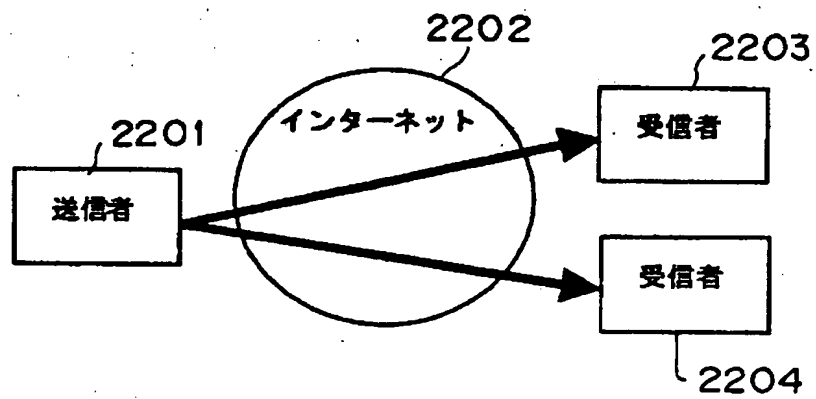
【図 2 1】

本発明の配送手段の応用



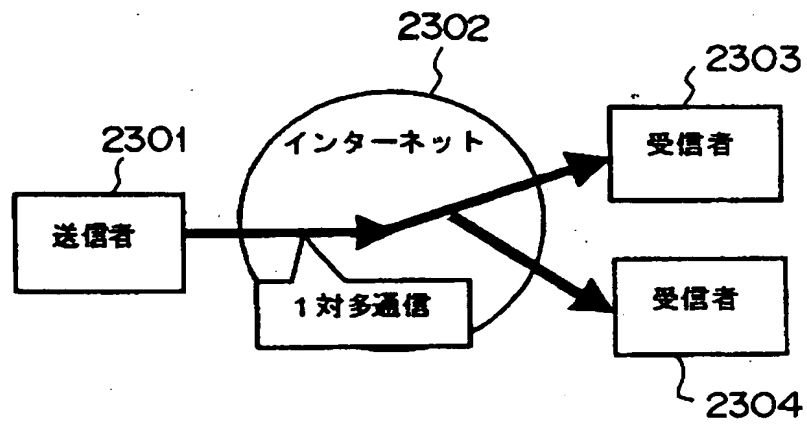
【図 2 2】

放送型通信



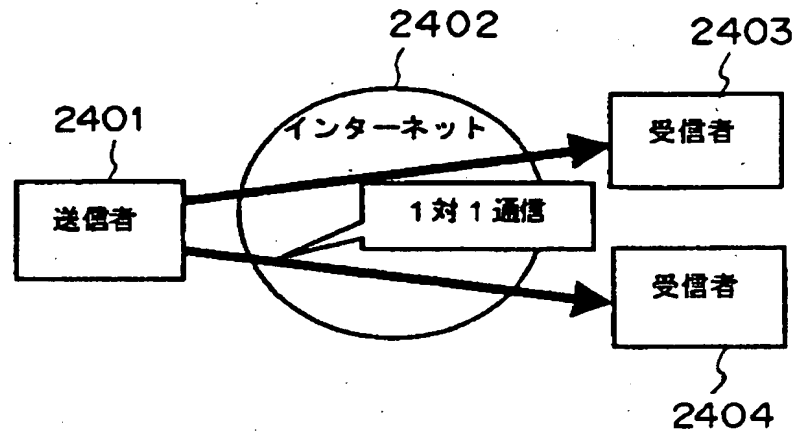
【図23】

マルチキャストによる放送型通信



【図 24】

ユニキャストによる放送型通信



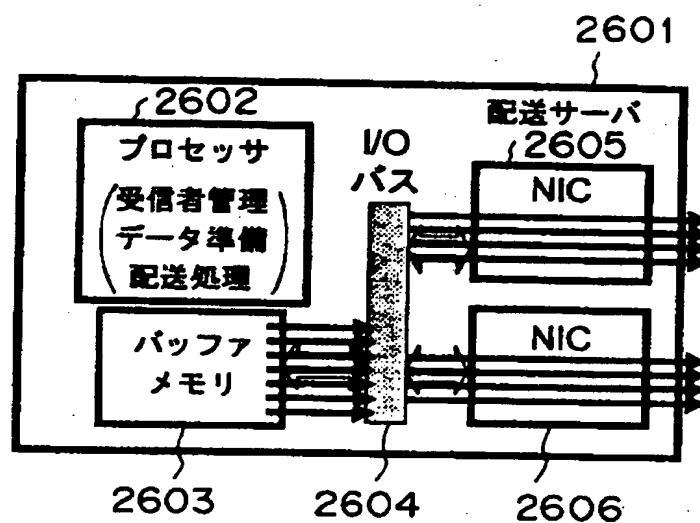
【図 25】

放送型通信におけるマルチキャストとユニキャストの比較

	マルチキャスト	ユニキャスト
送信側の負荷	1(小さい)	受信者数に比例(大きい)
アドレス管理	マルチキャストアドレス管理(複雑)	通常のアドレス管理(単純)
ネットワーク制御	マルチキャストルーティング(複雑)	通常のルーティング(単純)
受信側の制御	マルチキャストグループ管理(複雑)	通常のネットワーク制御(単純)

【図 26】

従来方式における配送サーバの構成



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 送信者側の情報処理装置である配送サーバが、配送品質を低下させずに同時にサービス可能な受信者数を増大させる。より具体的には、配送サーバのプロセッサ負荷及びI/Oバス負荷を低減し、配送品質を受信者の要求に対応して調整できるようにする。

【解決手段】 配送サーバ101は、プロセッサ102、バッファメモリ103、I/Oバス104、配送手段105とから構成される。さらに、配送手段105は、パケットの生成や送出制御を行う配送処理106と、プロセッサ102から供給される配送データを保持するバッファメモリ107と、ネットワークに接続するNIC108とから成る。プロセッサ102は受信者管理を行うと共に、バッファメモリ103上の配送すべきデータをI/Oバス104に接続された配送手段105に転送する。転送されたデータは配送手段105のバッファメモリ107に保持される。配送処理106は受信者情報に基づいて受信者毎にパケットを生成し、NIC108を介してネットワークに送出する。

【選択図】 図1

【書類名】 手続補正書

【整理番号】 0150465

【提出日】 平成13年 9月25日

【あて先】 特許庁長官殿

【事件の表示】

 【出願番号】 特願2001-231361

【補正をする者】

 【識別番号】 000005223

 【氏名又は名称】 富士通株式会社

【代理人】

 【識別番号】 100074099

 【住所又は居所】 東京都千代田区二番町 8 番地 2 0 二番町ビル 3 F

 【弁理士】

 【氏名又は名称】 大菅 義之

 【電話番号】 03-3238-0031

【手続補正 1】

 【補正対象書類名】 特許願

 【補正対象項目名】 その他

 【補正方法】 変更

 【補正の内容】

 【その他】 国等の委託研究の成果に係る特許出願（平成13年度経済産業省委託事業「エネルギー使用合理化システム開発調査等（エネルギー使用合理化電子計算機技術開発）」委託研究、産業活力再生特別措置法第30条の適用を受けるもの）

 【ブルーフの要否】 要

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号

[000005223]

1. 変更年月日 1996年 3月26日

[変更理由] 住所変更

住 所 神奈川県川崎市中原区上小田中4丁目1番1号

氏 名 富士通株式会社